

「衛星放送協会 年頭記者会見」 「ケーブル 3 団体合同賀詞交歓会」 「男子 B リーグオールスター戦ライブ ビューイング」 「ロボテックス展」

神谷 直亮

今回は、まず、新年の衛星放送業界とケーブルテレビ業界の現状に触れる。次いで、1月14日に開催された男子Bリーグオールスター戦ライブビューイングに招待されたので報告する。さらに、1月に開催された展示会の中から「ロボテックス展」についてレポートしたい。

「衛星放送協会 2018 年 年頭記者会見」

掲題の記者会見が、1月15日に明治記念館で行われた。登壇した和崎信哉会長は、まず、昨年の大きな成果として110度CSのHD化が進んだ点を挙げた。現在のCSでは、54番組中21番組しかHDに対応していないが、今秋には42番組に増えることを踏まえて「12月1日に始まる新4K8K衛星放送開始前に、長い間の懸案であったHD化が進展したのは非常に喜ばしい」と語った。

次いで、新4K8K衛星放送については、新規チューナーが必要になること、左旋の放送受信にはアンテナの交換や宅内設備の改良が求められていることなど、周知徹底面での課題を抱えている点を指摘し、関係者の一致団結した対応が必要との認識を示した。

最後に、有料多チャンネル放送の契約者に触れ、2017年11月末時点での契約者数は1350万で、2016年同月末比15万の加入減になっていると指摘して、オリジナルコンテンツを充実させることによる

奮起を促した。衛星放送協会としては、この観点から今年も「オリジナル番組アワード」を継続すると強調した。恒例の授賞式は、7月12日に予定されている。

「ケーブル 3 団体合同賀詞交歓会」

上述の「衛星放送協会 年頭記者会見」の直前の1月11日には、日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会、日本ケーブルラボの3団体が、溜池山王のANAインターコンチネンタル東京で合同賀詞交歓会を開催した。会場での話題は、新4K8K衛星放送開始に合わせ、CATV業界としていかに円滑に再放送を実施できるかという点に絞られていた。このために必要なのは、CATV網の光化、IP化の促進で総務省の補助を活用する設備の高度化が提案された。一方では、OTT事業者との競争が激しくなりつつあり、CATV資格技術者の技術力向上の必要性が強調された。2020年の全テレビ視聴世帯の約50%が4k8Kを視聴できるようにするという総務省が掲げた目標を達成するためには、約3000万世帯をネットワーク化しているCATVの底力に頼らざるを得ないのが実情のように思われた。

「男子 B リーグオールスター戦ライブビューイング」

NHK BS1 とスカパー 4K 総合で放送されたので視聴された読者が多いと思うが、Bリーグと同リーグのICTパートナーにな

っている富士通が、1月14日に男子Bリーグのオールスター戦のライブビューイングを東京で開催した。会場となった恵比寿ガーデンプレイス・ザ・ガーデンホールのステージには、迫力満点の450インチ大スクリーンが設営され、パナソニックの4Kプロジェクターによる投影が行われた。試合会場の熊本県立体育館には、スカパーブロードキャストの4K中継車が出動して撮影と中継を受け持っているという。熊本と東京間の映像伝送は、ネクシオン社の担当で、同社の光回線が使用された。伝送速度を聞いて見たら、スポーツイベントの高画質伝送ということもあり100Mbpsに設定したとのことであった。

当日、会場に行ってみて驚いたのは、指定席、ボックスシート、プレミアムボックスシート、スタンディングゾーンが整然と用意されており、あたかも試合会場と変わらない雰囲気と盛り上がりであった。さらに、ステージではDJによる解説、チア・マスケットとチア・ガール「Sunrocker」による応援も行われるというおまけがついていて実に楽しかった。主催者が「次世代型ライブビューイングB.LIVE in TOKYO」と銘打っただけのことがあったと思う。ちなみに、試合の結果は、BホワイトがBブラックに123対111で勝利し、最優秀選手には、3点シュートを6回決めた熊本ヴォルターズの小林慎太郎選手が選ばれた。

「ロボテックス展」

リード エグジビション ジャパンが主催した「ロボテックス～ロボット開発・活用展～」が、1月17日～19日の3日間にわたり東京ビッグサイトで開催された。最近、注目を浴びているドローンの展示とデモが見られるというので行ってみた。

ドローンという空を飛ぶロボットというイメージが強いが、今回の展示会には、



写真1 年頭記者会見に臨んだ衛星放送協会の役員。向かって左から3番目が和崎信哉会長。



写真2 男子 B リーグオールスター戦のライブビューイングが行われた恵比寿ガーデンプレイスのガーデンホールは、ファンで埋め尽くされた。

最先端の水中ドローンも出展されていた。

パワービジョン社製の水中ドローンを出展して注目を集めたのは、名古屋に本社を構えるシー・エフ・デー販売（CFD）だ。「PowerRay Wizard」と名付けたこの水中ドローンには、VRゴーグルと魚群探知機が搭載されており、専用アプリで水中にいる魚の状況や水温、水深、地形をスマホで確認できる。ブースの担当者によれば、「最大4K/30fpsの動画も撮影できる」とのことであった。価格を聞いて見たら、一式218,000円と答えていた。

CFDは、この他に4K/60fpsの高精細動画を空撮できるDJI社の「PHANTOM 4 PRO」も紹介した。1インチ、2000万画素のCMOSセンサーを採用しており、薄暗いシーンも鮮明に撮影・記録できるのが特色である。

ソニーとZMPのジョイントベンチャーとして知られるエアロセンス（AeroSense）は、エアロボ（AEROBO）サービスの売り込みに余念がなかった。自律飛行ドローン、エアロボマーカー（自動測位GPSマーカー）、エアロボクラウドという全自動ワークフローを駆使して、安定した安全な測量ができるというのがエアロボのウリである。

今回、会場で最も大きなブースを構え、将来を見据えた多種多様な展示を行ったのは、スカイロボット社である。同社のブースでは、まず、バッテリーに頼らないガソリン燃料と水素電池を使うドローンが目を引いた。両機ともまだ開発の途次とのことであったが、世界初となるこれらのドローンが完成すると4～5時間の飛行が可能になると思われる。

次いで、FLIR社のVUEシリーズが関心を呼んだ。特色は、赤外線画像撮影機能を搭載していることである。解像度とフレームレートを聞いて見たら「最大640×512ピクセル、30Hz」との回答であった。

スカイロボットは、さらに精密農業専用



写真3 シー・エフ・デー販売は、パワービジョン社製の水中ドローンを出展して注目を集めた。

の固定翼ドローン「Parrot DISCO Pro」を紹介した。マルチスペクトルカメラを搭載しており、30万平方メートル以上の大農場の健康状態、株数、草丈、雑草分布、窒素吸収量などを効率よく測定できるという。

ジオサーフは、スイスのsenseFly社の代理店としてマッピングドローン「eBee」を披露した。小型軽量の固定翼ドローン（重量700グラム）で、離陸は空中に投げただけで自律飛行を開始し、画像を撮影した後、自動着陸できるという優れものである。一回の飛行でカバーできる面積を聞いて見たら、12平方キロとの回答であった。

セキドは、DJIの販売代理店で、今回「SPARK」「PHANTOM 4 PRO」「MATRICE200」を出展した。「SPARK」は、手のひらサイズながら高性能をウリにしているミニドローンで、動画や写真を簡単に撮影できる。

みるくるは、珍しい3Dレーザーマッピングペイロード「Hovermap」を組み込んだドローンを紹



写真4 スカイロボット社は、将来を先取りした水素電池ドローンを紹介して関心を呼んだ。

介した。秘密は、リアルタイムSLAM（Simultaneous Location and Mapping）技術による空中レーザーマッピングで、GPSが使用できない環境でも正確な3Dマッピングを実現するという。さらに、レーザースカニング方式なので、夜間や暗い場所でもマッピングが可能である。

NEC ネットアイは、自律制御システム研究所が開発したドローン「ACSL-PF1」を出展して、映像生中継の実例を紹介していた。地域の活性化プロモーションの一環で、おすすめスポットをドローンで撮影してプロモーション映像として活用してもらったという。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り
120cmφ型

衛星通信用超小型可搬アンテナ
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal

5分で運用開始

IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
http://www.bizsat.jp TEL : 03-5772-9125

Communications k.k.